



令和7年6月27日  
内閣府沖縄担当部局

## 令和7年度北部振興事業の実施について（第3回）

### 1. 事業の概要

北部12市町村等の要望に基づき、産業の振興、定住条件の整備に資する事業を実施。

### 2. 今回配分の状況（国費ベース）

#### 非公共事業

新規 4 事業

継続 2 事業

今回配分額 7.5 億円

※詳細は別添資料のとおり

#### （参 考）

##### <予算計上>

- 沖縄北部連携促進特別振興事業費（非公共事業） 令和7年度予算額49.5億円  
・補助率：8／10

##### <今回の配分の考え方>

- 沖縄県の均衡ある発展を図る観点から北部地域の振興に資する事業に対し配分する。  
○配分対象の事業は、北部12市町村から北部地域の振興に資するものとして要望されたもの。

#### \* 問合せ先 \*

政策統括官(沖縄政策担当)付  
(担当 國武、猪鼻)  
電話 03-6257-1693

## 令和7年度に実施する振興事業について

令和7年6月27日

## 【非公共事業】

テーマ：産業振興のための整備

〔新規〕

事業名 (事業主体)	計画期間	令和7年度事業費 (うち国費)
本部港立体駐車場増設整備事業 (伊江村)	令和7年度 ～ 令和8年度	55百万円 (44百万円)
<p>本部港は国により「官民連携による国際クルーズ拠点」に指定され岸壁整備を進めるとともに、北部地域の物流拠点としての利用も拡大している。また、伊江島観光も好調に推移していることから本部港を訪れる車両も増加しており、それに伴い近年駐車場不足が生じ、港湾内への違法駐車や路上駐車等が課題となっている。</p> <p>本事業で、これまでの60台から140台収納可能な駐車場を整備することにより、現状の駐車場不足が解消され、安全性、利便性の向上、交通の活発化を促し、北部拠点港湾としての観光振興・経済発展に資する。</p> <p>(担当省庁) 内閣府</p>		

〔新規〕

事業名 (事業主体)	計画期間	令和7年度事業費 (うち国費)
アクティブパーク機能強化整備事業 (金武町)	令和7年度 ～ 令和8年度	36百万円 (29百万円)
<p>新開地地区内の中心に位置する金武アクティブパークは、同地区の異国情緒漂う雰囲気により、ミュージックビデオや映画等の撮影が行われた。日中は聖地巡礼、金武町名物のタコライス等を求める多くの観光客、家族連れ、夜間はアメリカ文化の影響を受けたBAR等で賑わいを見せている。特に週末や大型連休は、同施設を利用する様子が多く見られる。また町内の企業や団体が企画したイベント等の開催や修学旅行の平和学習プログラムの拠点施設となっており、本施設の機能強化を図ることで、本町の交流人口増加や、やんばる南エリアの地域活性化の場として大きな役割を担っている。</p> <p>また、本施設は緊急避難場所に指定されており、災害時の拠点としての機能強化を図るものとする。</p> <p>(担当省庁) 内閣府</p>		

## 〔新規〕

事業名 (事業主体)	計画期間	令和7年度事業費 (うち国費)
北部地域観光人材育成事業 (北部広域市町村圏事務組合)	令和7年度 ～ 令和8年度	24百万円 (19百万円)
<p>北部地域では、ジャングリアの開業や世界自然遺産登録、本部港へのクルーズ船寄港により、今後、観光客の増加が見込まれている。</p> <p>一方で、インバウンド対応人材等が不足しており、観光人材の育成等が課題とされている。観光人材の育成で求められる人材として、インバウンド対応人材では、語学スキル、異文化対応力等が、例として挙げられる。</p> <p>具体的な実施方法として、若年層・新規参入者向けのカリキュラム案、観光従事者リスクリング向けのカリキュラム案を策定し、スキル向上のための研修を実施。研修受講者に対する認証制度の導入を検討している。</p> <p>本事業の実施により、観光客が質の高いサービスと心に残る観光体験を受けられ、観光客の満足度の向上につながることから、沖縄県内の他地域と北部地域の差別化が図られ、北部地域全体の観光振興に資する。</p> <p>(担当省庁) 内閣府</p>		

## 〔新規〕

事業名 (事業主体)	計画期間	令和7年度事業費 (うち国費)
名護市21世紀の森公園武道機能拡充整備事業 (名護市)	令和7年度 ～ 令和8年度	22百万円 (18百万円)
<p>沖縄県は、空手発祥の地であり、県内の道場数は386か所となっている。門下生は推計値として、約6,000人である。</p> <p>また、世界中に1億3千万人の空手愛好者がいると言われており、海外に支部を持つ道場は31.5%、外国人を受け入れた道場は37.4%となっている。</p> <p>海外から来訪する空手愛好家は、国別で見ると、米国が最も多く38.2%、豪州が21.1%、仏が17.1%となっている。</p> <p>名護市は、空手における劉衛流の発祥の地であることや上地流、剛柔流も活動している。また、沖縄は、空手や棒術などの武術的身体表現が、地域行事に根差しており、生活の一部になっている。その他、北部地域では、沖縄角力などの武道も盛んである。</p> <p>このため、本事業により、名護市がスポーツゾーンとして位置づけている21世紀の森公園内に、北部地域における武道競技の拠点として整備することにより、地域の道場の鍛錬の場として、活用するのみならず、観光客への武道体験や大規模な大会、学生・実業団及び大相撲等のプロスポーツの合宿等を誘致し、これらを端緒として、武道ツーリズムが北部地域の観光振興の一翼になることが期待できる。</p> <p>(担当省庁) スポーツ庁</p>		

[ 継続 ]

事業名 (事業主体)	計画期間	令和7年度事業費 (うち国費)
結の浜海浜公園整備事業 (大宜味村)	令和5年度 ～ 令和7年度	566百万円 (453百万円)
<p>結の浜は、シャワーやトイレといった基本的な設備がなく、またビーチと一体となった海洋レクリエーション機能が未整備であるため、観光客にとっては利用しづらく、その誘致にあたってきわめて不利な状況下にある。</p> <p>本事業により、シャワー・トイレや炎天下の日除けとなる東屋、駐車場を備えた海浜公園として整備し、利便性の抜本的な改善を図る。さらに、ビーチスポーツを始めとするマリナクティビティが可能となる施設を併設することにより、当地を目的地として観光客への訴求力を高め、魅力ある観光地の形成を行うとともに、沖縄における観光客偏在の解消を通じて、北部地域全体の発展に寄与する。</p> <p>(担当省庁) 内閣府</p>		

テーマ：定住条件の整備

[ 継続 ]

事業名 (事業主体)	計画期間	令和7年度事業費 (うち国費)
北山文化圏センター整備事業 (今帰仁村)	令和6年度 ～ 令和8年度	240百万円 (191百万円)
<p>本部半島に位置する今帰仁村は、琉球三山時代の「北山」の拠点であったことから歴史文化の薫り高い村で、地域の伝統も各地に残っており、現在では「北山の風（演技集団）」など若い世代が中心となって北山文化を継承する取り組みも生まれている。また、海、山、川など優れた自然からなる沖縄北部の良さも色濃く残っている。</p> <p>こうした財産を生活と切り離すのではなく、大切に守りながらうまく活用し、今後も生活の中に受け継ぎながら守っていく必要がある。北山文化圏センターは「つながりの拠点」の総合的な拠点として、拠点間をつなぐ連携の拠点として、歴史と未来をつないでいくものを目指す。</p> <p>このことから、住民が住みやすい持続可能な村を構築するために、地域・命・世代・文化をつなぐために、定住条件の整備を実施するものとする。</p> <p>(担当省庁) 内閣府</p>		

# 令和7年度 北部振興事業(非公共)第3回事業箇所位置図

